令和５年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立扇小学校
校長　池野　正信

１　学校教育目標

〇考える子　　〇がんばる子　　〇助け合う子　　〇元気な子

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

〇学校像	〇児童・保護者・地域から信頼される学校 〇子供一人一人を大切にし、子供たちが「明るく生き生きと活力のあふれる」学校 〇子供・教職員ともに良さや可能性を十分発揮し、ともに成長する学校
〇児童・生徒像	〇子供たちがめざして欲しい「扇っ子」の姿 ・「おもいやり」の心を大切にする児童 、「うんどう」して体を鍛える児童、「ぎもん」を大切にし、自ら学ぶ児童
〇教師像	〇自らの向上を図ることができる教師　〇お互い切磋琢磨し、高め合える教師 〇学校運営に貢献し、主体的な提案ができる教師　〇学校、児童、地域に誇りをもてる教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

【学力向上】補習や計算名人検定の実施により、基礎的な計算力は定着しつつある。しかし、文章の読解力・学んだことを活かす活用力については課題がある。また、静かに授業を受けることはできるが、自分で考えたことを自信をもって表現できる児童は少なく、主体的に学びに向かう態度についても課題が多い。教員の指導方法のさらなる改善が必要である。さらに、家庭学習の習慣が身に付いている児童が少なく、家庭と連携して学力向上に取り組む必要がある。

【自己肯定感の醸成】学級の係活動など責任をもって取り組むことができる児童が多い。少しずつ行事や発表の場は増えてきているが、達成感から自信につなげるところまではいっていない。日々の学校生活では、教師だけでなく児童同士でも認め合えるような言語環境に大きな課題がある。児童の活躍の場を工夫し、児童が自信をもてるように、お互い認め合いながら、自己肯定感の醸成を図っていきたい。

【教員の授業力向上】「できた」「わかった」を合い言葉に授業改善に取り組んできた。授業を見合ったり、うまくいったことを共有したりして授業改善に対する意識は高まっている。若手教員が自主的に学ぶ雰囲気も出てきた。令和５年度は、さらに研究推進委員会を中心に授業改善に組織的に取り組んでいきたい。また、小中連携を充実させることで、校内の教員の授業力向上につなげていきたい。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	〇	〇	〇	〇	〇
2	自己肯定感の醸成	〇	〇	〇	〇	
3	教師の授業力向上	〇	〇	〇	〇	
4						

５　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
児童の基礎学力の定着 活用力の育成	学力調査通過率 80%以上	77.3%（国語 76.7%　算数 77.9%）	教員のさらなる授業改善と、組織的な学力向上の取組を要する。	△

Ｂ　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	朝学習 パワーアップタイム	全学年 国語 算数 読書	火:国語 水:読書 金:算数 始業前	【指導者】担任 【ねらい】復習・確認 【使用教材】計算プリント等	単元テストやタブレットを活用し、記録していく。	・単元テストで 正答率 80% 以上	単元テスト正答率 ・国語 79.6% ・算数 79.2%	目標達成間近次年度も継続させ、達成を目指す。	△
継続	補習教室 （Ａ補習） （Ｃ補習）	全学年・ 各教科	休み時間や放課後等	【指導者】各担任・専科 【ねらい】指導中内容の定着 【使用教材】プリント等	定着度 確認テスト 12･2 月実施	２月テストで目標値を通過する対象児童 ８０%	2 月実施分 国語…83.8% 算数…81.3%	目標値通過率 82.6%で目標達成。	○
継続	放課後補習教室 （Ｂ補習）	全学年 国語、 算数	放課後	【指導者】各学年担当者 （担任・専科・管理職等） 【ねらい】つまずき解消 【使用教材】 ・定着度テスト対応問題　等	定着度 確認テスト ９月に実施	２月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童８０%	定着度確認テスト ・国語 86.9% ・算数 81.9%	放課後補習の効果あり	○
継続	計算名人検定	２年生～	２年かけ算学習後～ ３年～ 通年	【指導者】担・専・支援員 【ねらい】 計算力の定着 【使用教材】 計算問題プリント	定着度確認テスト （対象児童）	全学年 定着率　90%以上	計算名人検定 定着率 90%	日常的にかけ算に触れる機会を設定していく。	○
継続	読書・読み聞かせ活動	全学年	年間	【指導者】担・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等 【ねらい】 読書習慣の定着・語彙の獲得・知的好奇心の涵養 【使用教材】記録用カード	記録用カード 題名とページ数を記録	・1～３年 ８０冊/年 ・4～6 年 6000 頁/年 50%以上が達成	全学年で 50%弱の児童が目標達成。	読書量の二極化と、読解力向上につなげていくことが課題。	○

継続	ICT 教育の充実	全学年	通年	全学年で年間通して ICT を活用した授業を実施。 年間計画に沿って各担任によるプログラミング教育を行う。 タブレットを活用した授業実践についての研修会を行い、授業に活用していく。	年間指導計画の作成。 AI ドリルの活用。 研究授業の実施。	長期休みの課題の実施。 AI ドリルの活用全学級。 年間通してタブレットを活用した授業の実施。	･AI ドリルは朝学習で週1回必ず取り組んだ。 ・開かれと協働しプログラミングも実施した。	タブレットの持ち帰りを始めたことにより、使用頻度が大幅に向上した。	◎
継続	家庭学習の手引き発行	全学年 全員	年１回 （４月）	【ねらい】 ・家庭学習の習慣化・協力 ･宿題の提出率を担任が確認	宿題提出状況調査	宿題提出率 ９０％	宿題提出率 74%。	家庭の協力を要する。	○
継続	サマー スクール	全学年 算数 国語 各学年 10 名程度 正答率 70%以下	夏休み 10 日	【指導者】担・専・管 【ねらい】 担任による少人数指導。つまずきの解消。解けなかった問題の解き直し等。 【使用教材】 ・プリント教材 ・次へのステップ等	校内学力テスト	次回の校内学力テストで正答率アップ	定着度確認テスト ・国語 86.9% ・算数 81.9%	サマースクールの効果あり。しかし、まだまだ伸びしろがある。	○
継続	扇寺子屋	全学年	通年	各学級補習対象児童以外の児童の管理職による補習	特に九九が定着できていない児童に対する補習を行う。	九九検定２年生以上全員合格	九九検定は98%の児童が合格。	合格しても、日常的に使う場面を設定。	△
継続	ＭＩＭによる指導の充実	１年	年間 国語・ 補充	【指導者】１年担任 【ねらい】MIMの確実な定着 【使用教材】プリント教材	MIM 実施状況を毎月確認	１月に１st ステージを 85%	１月時点における １st ステージ 76%	ICT も活用しながらさらなる定着を図る	△
継続	音読指導の充実	全学年	通年	【指導者】担任 【ねらい】基礎学力の定着 【使用教材】教科書	国語だけでなく各教科、教科書の音読指導を行い、スラスラ音読ができるようにする。	２月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童 80%	２月実施で２教科目標値通過率 82.6%。80%を達成できた。	初発の文章でも滑らかに音読できるための教材を活用していく。	△
新規	読解力の向上	全学年	通年	【指導者】担任 【ねらい】基礎学力の定着 【使用教材】教科書	文章の要約指導 根拠が明確な発表 校長講話の要約	２月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童 80%	２月実施で２教科目標値通過率 82.6%。80%を達成できた。	文章の要約指導、各学年での取組成果あり。	○

重点的な取組事項－２	自己肯定感の醸成

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分も他人も大切にできる児童の育成	児童の意識調査の「自分には良いところがあると思う」の項目 80%以上	「自分には良いところがある」に対する回答は 83.2%。一方「どうせ自分は･･･」とあきらめてしまう児童も散見される。	学校と家庭、そして地域でも児童が称賛される機会を意図的に設定していく。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ごはん」の達成率 90%以上 あいさつ名人　90%以上	学校便りや保健便りなどで基本的生活習慣の大切さを各家庭に向けて発信していく。 「生活がんばりカード」を活用して家庭と連携しながら児童の意欲を高めていく。 「あいさつ」週間を通してあいさつのできる児童の育成を目指す。	「早寝・早起き・朝ご飯」は 70%台、あいさつについても 70%台と、いずれも目標には至らなかった。登校時間帯に間に合わない児童も多く、基本的生活習慣については、全体的に課題を残している。	PTA 会長や PTA 顧問にも現状を伝え、双方向から児童の基本的生活習慣の定着に向けた啓発をしていくことを確認した。	△
人権教育の充実	年間計画に沿った「特別の教科道徳」の授業の実施。 教員の人権研修を年３回以上実施	「特別の教科道徳」の授業で「生命尊重」「思いやり」「他者理解」について指導を深めていく。 研修を通して教員の人権意識の向上を図る。 全校で場に応じた丁寧な言葉使いができるよう取り組む。	児童の互いに思いやる態度は育ちつつある。 管理職による研修・指導により、教員の人権意識は向上している。 95%以上の児童が、場や相手に応じた言葉遣いができる。	自分中心であったり、周囲のせいにしたりする児童については、、相手の立場を考えられるよう、時間をかけて説諭していく。	○
特別活動の工夫	児童が主体的に活動に取り組み、全児童が学級に必要とされているという自己有用感をもてるようにする。	学級での係活動の充実 委員会活動の工夫 兄弟学年活動の実施 学級やクラブ・委員会での話し合い活動の充実 発表の場を多く設定	兄弟班交流活動、全校遠足、クラブ・委員会活動は予定通り実施できた。アフターコロナで児童が一堂に会する機会がもてるようになった。	児童の主体性をさらに引き出し、生かしながら活動できる内容にしていくことで、自己有用感の向上にもつながっていく。	○

様々な体験学習の実施	地域と連携した体験活動を年３回以上実施。 外部講師による出前授業を年３回以上実施。	地域の自然材を活用したり、地域の方をゲストティーチャーとしてお招きしたりしながら、地域と交流を図り、地域の一員であるという意識を高めていく。 外部講師を招いたり、出前授業を実施したりすることで、体験活動を充実させる。	じゃがいもほり、百人一首、寄せ植え、プログラミング教育等、開かれた学校づくり協議会と連携した取組を実施することができた。 ドッヂビーの外部講師も招聘し、足立区発祥のスポーツ体験会も開催した。	地域のイベントも含めた体験活動に参加する児童は、自己肯定感が高い傾向にある。今後も多くの体験活動の機会を設定していく。	◎
達成感をもてる行事の工夫	各行事、全学年めあてを明確にし、全児童が達成感を味わえるようにする。	各行事の取り組みのめあて・振り返りを具体的に行う。 できるようになったことを明確にし、児童に達成感をもたせる。	各行事において、めあてを共有し振り返りを丁寧に行った。	児童に達成感をもたせるためには、それぞれの行事に「自分事」として参加することに意義がある。	○
言語環境を整える。	校内全体で、丁寧な言葉使いを年間通して指導していく。	教員に対する研修会の実施。 週目標等で児童が意識できるようにする。 「～さん」付け呼称の定着	さん付け呼称は100％定着した。	児童を指導する際も、威圧的、一方的にならず、寄り添いながら心に問いかける指導を心がけていく。	○

重点的な取組事項－３	教師の授業力向上

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全児童が「できた。」「わかった。」と実感できる授業の実践。	全教員による問題解決型授業の実施。児童の「授業アンケート」の「勉強したことがわかる」の項目 90%以上	「勉強したことがわかる」と回答した児童 90.6%	目標は達成したが、これが学力として定着していくことが課題。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
授業観察による授業改善	管理職による授業観察を年３回以上実施し、授業改善を図る。	授業チェックシートを活用しながら、自己評価をした上で管理職による指導を行い改善を図る。	授業観察をした放課後に、教員と授業や児童の様子について話すことで、授業改善の方向性や児童の対応方法について共有することができた。	本校は熱心な教員に恵まれている。教員自身の熱意と、管理職による指導や同僚同士の話し合い等で、さらなる授業力向上が期待される。	○
校内研究の充実	年３回以上の授業研究の実施 年５回以上の研修会の実施 若手教員による自主研修の充実	各分科会でテーマを決め、お互いに授業を見合い、授業研究を実施する。 各教科の指導の工夫など、研修会をもち、お互いに発表し合い授業に活用していく。	教員の相互授業参観については十分行われなかった。 計画的な OJT を７回、若手による自主的な研修も３回程度実施。	互いに学び合う時間を求めている教員が多いが、時間設定については考えていく必要がある。	○
小中連携の充実	年３回の研究授業と２回の研修会の実施	９年間の見通しをもって、系統的な指導計画を立てる。 他校の指導方法から自らの指導を振り返り、改善につなげていく。	小中連携研究授業を３回実施。足立スタンダードだけでなく、ICT の活用も意識した授業提案となり、協議会も充実した。	指導案検討については、C４th を活用したが十分に取り組めなかった。	○
教科指導専門員との連携	毎月１回以上教科指導専門員と管理職で情報交換を行い、若手教員の授業力向上に努める。	教科指導専門員の指導記録と若手教員の週案などから、課題を確認し、授業の改善に必要な指導をしていく。	若手教員に関する情報共有を行い、現状と育成方向について確認することができた。	熱意のある若手挙員の授業力向上のため、今後も引き続き連携していく。	○

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

☆学力向上アクションプランについて

【課題】・高学年の２教科通過率（５国…70.2、５算…66.0、６国…66.0、６算…60.0）と定着状況に課題がある。他学年３年生の国語（79.1）を除き、目標とした通過率 80%を上回ったが、2 年生も 4 年生も算数より国語の通過率が低い状況となっている。

【対策】・個々の教員が国語科を中心とした読解力の向上を図った授業改善を進めていく。段落ごとの読み取り、サイドラインを活用した児童の思考について、児童同士で共有し対話する場面を設定していく。算数科では、文章問題で立式に至った根拠についてや、混合計算で式の順番を変えたり括弧を活用したりした理由等について児童同士で話し合いながら、数学的思考力を向上させていく場面を意図的に設定していく。

・組織的な学力向上の取組①…低学年の MIM 指導の段階で、児童が単語やセンテンスついて着実な定着を果たし、語彙を増やしていく。

・組織的な学力向上の取組②…週３回（１回１５分間）の朝学習では漢字や言語事項、計算の基礎的知識を定着させる。週に１回は必ず AI ドリルに取り組ませる。

・組織的な学力向上の取組③…補習学習では、４～８月は前学年の既習事項再確認・再習得、９～１２月は現在進行中の学習内容の定着、１～３月は当該学年の学習内容の復習として、必要な児童を対象に放課後個別指導を行っていく。

☆自己肯定感の醸成つついて

【課題】・「自分にはよいところがある」と回答した児童が 83.2%で、目標とした 80%を達成した一方、「どうせ自分は…」とあきらめてしまう子もいる。

【対策】・教育活動全体を通した道徳的指導、人権教育の推進に取り組み、児童一人一人が安心・安全な学校生活を送れるようにする。

・学習面だけでなく、日常生活における行動面や体育的・文化的行事面で活躍した児童の称賛の場を意図的に設定していく。

・教員間、保護者と連携し、児童一人一人の頑張っている姿や得意とする分野について共有し、多方面から称賛の声をかけていく。

☆授業力向上について

【課題】・「勉強したことが分かる」と回答した児童が 90.6%で、目標は達成したものの、これを学力として定着させていくことが課題である。

【対策】・児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、日常的な授業改善に努める教員集団を目指していくとともに、教員の授業力向上に効果的なＯＪＴや研究授業の実践に取り組んでいく。

（２）保護者や地域へのメッセージ

令和５年度は、運動会や展覧会、授業参観等、各行事が予定通り実施できました。実施形態は従来通りとはなりませんでしたが、保護者・地域の皆様からの温かいご理解とご協力をいただきながら、児童が安全に楽しく取り組むことができました。各行事でいただいたご意見やご感想をもとに、令和６年度の教育活動を進化させていきたいと思います。

生活指導面でも、「早寝・早起き・朝ごはん」や、登校時間帯に合わせた送り出しなど、ご協力いただき感謝申し上げます。学習で必要な持ち物の確認等も含めて、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

・高学年以外でも、可能な範囲で各教員の得意分野を生かした教科担任制を導入し、授業改善の活性化を図り、児童の学力向上・体力向上につなげていく。

・学校図書館利用や、校庭遊びの学年順番制を撤廃し、休み時間に児童が好きなことに取り組める時間を広げていく。